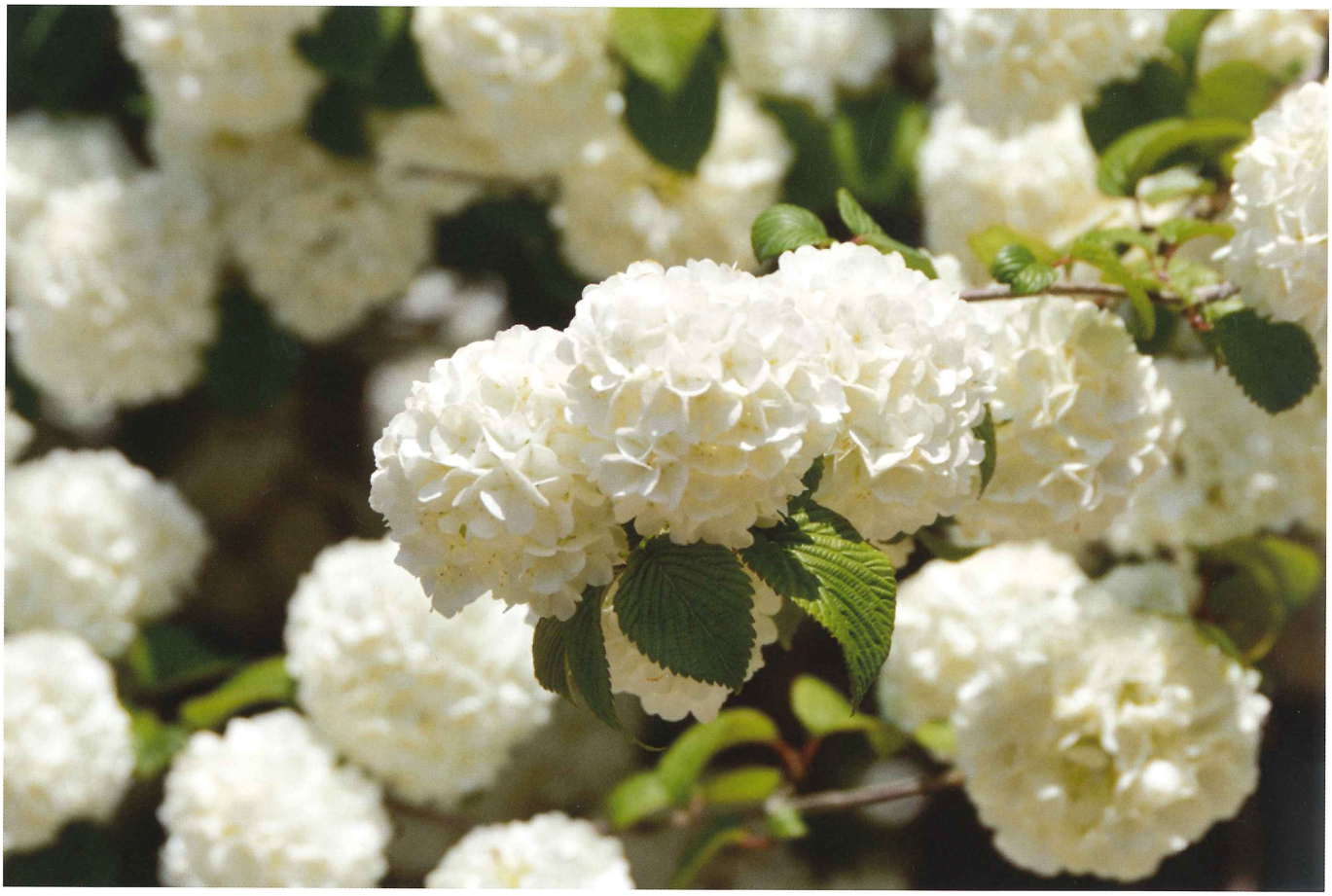
井原市民病院だより No.38

井原市の花　パンジー

2019年4月発行

日本医療機能評価機構　病院機能評価 3rdG:Ver1.0 認定

地域とともに歩む、より愛される病院を目指して



オオデマリ

Mission（使　命）	Vision（将来展望）
地域住民の尊厳を守り、命を守り、健康増進を支援する	いつでも安心してかかれる、身近で愛される急性期病院

Ibara City Hospital

井原市立井原市民病院

〒715-0019　岡山県井原市井原町1186番地

TEL 0866-62-1133(代)　FAX0866-62-1275(代)

E-mail byouin@ibarahp.jp

診療科目

内科・循環器内科・外科・消化器外科・整形外科・眼科
小児科・脳神経外科・放射線科・麻酔科・耳鼻咽喉科
リハビリテーション科・婦人科・泌尿器科・皮膚科
救急科

発行責任者：合地　明

挨　拶

井原市病院事業管理者　合　地　　明

駐車場の枝垂れ桜が今年も見事に花をつけ、心を癒してくれています。

平成３１年４月１日、様々な思いでこの日を迎えた人が多いのではないでしょうか？

新元号が「令和」と発表されました。梅の花の宴が由来とのこと。古来、日本人にとって花とは、桜ではなく梅の花であると古文の先生に教えられた記憶がよみがえりました。まさしく夢と希望の持てる「ビューティフル　ハーモニー：beautiful harmony」の時代の幕開けとなることを願うばかりです。

一方、現実社会に目を向けてみると、働き方改革の中での時間外労働の厳格化、消費税問題等医療現場においても重要な課題となっています。

中核拠点病院である我々井原市民病院において、今年度は「連携と和」をテーマに地域住民の方々の健康福祉の増進に寄与していきたいと考えております。

連携においては機能分化により高機能病院とのみならず地元医師会、特養、介護施設等とのつながりの強化、組織としての形だけでなくチーム医療の実践が可能な医療スタッフ間の交流（和）を考えております。

皆様方のご意見を参考に、地域に愛され必要とされる病院作りを行っていきたいと考えております。

よろしくご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

井原市民病院名誉院長称号授与式

井原市民病院名誉院長授与式が、３月７日井原市役所で行われ、元院長の原藤泉先生と前院長の山田信行先生に、大舌井原市長から名誉院長の称号が授与されました。

原藤先生は、平成 19 年４月から平成 22 年３月までの３年間院長を務められ、退任後も引き続き、当院の外科非常勤医師として現在も診療にあたられています。

山田先生は、平成 22 年４月から平成 28 年３月までの６年間院長を務められました。退任後も本年３月まで３年間、当院の循環器内科嘱託医師として診療にあたられました。

お二人とも卓越した指導力のもと病院経営にその指導力を発揮され、院長退任後も当院の診療体制の維持に寄与されてきました。これまでのご尽力に改めて感謝いたします。

山田先生　　原藤先生

井笠地域住民公開講座・シンポジウム

総務課長補佐　松山　昌史

（主催：井笠地区連携支援の会）

平成 30 年 10 月 28 日（日）、井笠地区連携支援の会主催により『これからの高齢者医療人生の最終段階における医療・ケアのあり方』と題して、井笠地域住民公開講座・シンポジウムをアクティブライフ井原において開催されました。

座長に岡山大学大学院保健医療学研究科 齋藤 信也 教授、シンポジストとして、岡山県保健福祉部医療推進課 則安 俊昭 課長、岡山大学大学院保健学科 松岡 順次 教授、同大学院救命救急・災害医学 中尾 篤典 教授に、それぞれ『介護医療について』、『終末期医療に対する本人の意思決定について ＡＣＰ～アドバンスケアプラン～』、『高齢者救急について』と題しての講演のあと、パネルディスカッションが行われました。

井笠地域では超高齢社会となり、高齢者のみ世帯や独居世帯が増加し、課題も多いなかで、国が推進する高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築に向けてそれぞれの立場からの話があり、参加者は熱心に聴いておられました。

看護補助者として働いて・・

3階病棟看護補助者　妹尾真由美

私たち看護補助者は、各病棟を中心に総勢25名で看護の補助業務をしています。

夜勤業務を含めた常勤からパートタイムまでそれぞれの勤務形態にライフワークバランスにあわせて勤務しています。

業務の内容は、看護師長および看護師の指導の下に、療養上の世話（食事・清潔・排泄・入浴・移動など）のほか、病室内の環境整備・ベッドメイキング・看護用品および消耗品の整理整頓の業務を行っています。

入職時には無資格だった仲間も日々の業務に留まらず、ヘルパーの資格や自己研鑽を続けて介護福祉士の資格を取得した方もいます。平成30年度からは、オムツ講習会を積極的に受講し、「オムツマイスター資格」を取得する取り組みも始めました。

経験年数が数十年のスタッフが多いですが、体力には皆自信があります、時には「疲れる」と声が出る時もありますが、患者さんの笑顔に活力を貰っています。

今後も、患者さんの入院生活が快く過ごされますように仕事に励んでいきたいと思っています。

研修医紹介

内　科　**松下　俊輔**　先生

2019年4月から井原市民病院でお世話になっております、内科専攻医の松下俊輔と申します。

新内科専門医制度が昨年度から開始され、岡山県では内科専門研修の2年目に病院を移動して研修を行う制度が始まりました。私は4月から6月まで井原市民病院にて専攻医研修をさせていただけることとなりました。

私は生まれてから大学までを静岡県で過ごし、医師免許を取得後、就職を機に岡山県に移りました。倉敷市で勤務後、恥ずかしながら今回初めて井原市を訪れました。井原市は自然が豊かで、引越しして間もない頃仕事帰りに井原堤に寄ると、夜桜が大変きれいで感動しました。

井原市民病院はきれいな病院と以前からうかがっていましたが、建物は常に清潔で、明るい挨拶が飛び交い、不慣れな私にも親切に教えていただき、すばらしい環境で明るく専攻医研修を送らせていただいております。

救急外来、内科外来、病棟業務と担当させていただいていますが、井原市民の方は大変優しい方ばかりで、おかげさまで患者様、ご家族の方と協力して診療を行うことができています。

井原市民病院は井原市の医療を担う病院であり、病棟・外来、生理検査、画像検査などで活躍されている方々から多くのことを学び、井原市の医療を支えられている経験豊かで活躍されている先生方の指導の下、研鑽を積んで行きたいと思っております。

井原市の皆様に貢献できるよう努力して行きますので何卒宜しくお願い申し上げます。

《ボランティアの会「ひまわり」》

平成30年12月12日（水）、花壇整備を行い、夏・秋バージョンのマリーゴールドから春バージョンのパンジーに模様替えいたしました。まだ寒い日が続きますが、これから春へと季節が進むとともに成長し楽しませてくれることでしょう。

新人の紹介

名前　（職名）　担当科　①抱負　②趣味・特技

【H 30 年 10 月採用】

渡邊　仁美（看護師）　5 階病棟
①明るく元気に、笑顔で楽しく仕事が出来るように頑張ります
②料理やお菓子作りと食べる事です

永野　郁江（看護師）　訪問看護センター
①仕事と子育てが両立できるよう頑張りたいと思います
②特にありません

【H 30 年 11 月採用】

立古　浩雅（医師）　内科
①色々な病院で勤務してきた経験を活かした仕事ができたらと思います
②趣味は読書　物語が好きです　マンガや絵本も読みます

石岡　愛子（看護師）　3 階病棟
①一日も早く仕事を覚え自分にできることを頑張りたいと思います
②旅行

【H 31 年 3 月採用】

羽原　典子（看護師）　3 階病棟
①初心を忘れず前向きに成長していきます
②ピアノ、スキー

【H 31 年 4 月採用】

徳長　芳美（看護師）　薬剤科
①患者さんや医療スタッフに信頼される薬剤師になれるよう日々努力します
②読書、裁縫

山田　美菜子（看護師）　3 階病棟
①知識・技術・態度を身につけ責任をもって行動する
②趣味は散歩です　早起きが特技です

三宅　歩美（看護師）　3 階病棟
①体調を崩すことなく元気でいること
②絵を描くこと　マンガを読むこと

藤井　悠（看護師）　3 階病棟
①地域に貢献できる看護師になれるよう頑張りたいです
②絵を描くこと　音楽を聴く・歌うこと　動画を見ること

渡邊　久美子（看護助手）　3 階病棟
①チームの一員として何事にも努力し一生懸命頑張ります
②映画鑑賞、旅行、料理

寳諸　俊栄（看護師）　4 階病棟
①この看護師さんに担当してもらいたと思って頂けるような看護師になれるよう頑張ります
②旅行

森原　菜々美（看護師）　4 階病棟
①患者さんにきちんと寄り添ったケアの行える看護者になることを目標に努力します
②スポーツで体を動かしリフレッシュすること

松川　彩乃（看護師）　4 階病棟
①技術や知識を身につけ患者さんに寄り添った看護を実践できるよう頑張ります
②バスケットボール、旅行、ライブに行くこと

地域医療体験実習を終えて

前田 聖和
岡山大学医学部医学科　3年生

10月第一週の一週間、地域医療体験の場として井原市民病院で実習をさせて頂きました。まずは、我々学生を温かく迎え、また、熱心にご指導くださった井原市民病院職員の皆様をはじめ、実習にご協力くださった地域の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、今回の実習では外来見学をはじめ訪問リハビリ / 看護、NSTのラウンド等様々なことを体験させていただきましたが、どの現場でも、職員の皆様がそれぞれの立場からそれぞれのプロとして、患者さんやそのご家族の想い、生活にまで思いをはせながら仕事をなさっているのが印象的でした。中でも、NST活動については恥ずかしながら初めて耳にする言葉だったこともあり、深く印象に残っています。NST活動で扱う栄養管理や摂食、嚥下といった分野は患者さんのQOLに直結する事であるにも関わらず、我々医学生が忘れてしまいがちな、ともすれば軽視してしまいがちな分野だと思います。そのため、NSTに所属する様々な職種の方がそれぞれどのように考え患者さんをサポートしているか知ることが出来たのは、他職種連携という面でも、患者さんをサポートする姿勢という面でも、非常に大きな収穫でした。医学生になり「チーム医療」や「他職種連携」といった言葉をよく耳にするようになりましたが、今回の実習で改めて、それぞれの言葉の持つ意味やその意義を理解することが出来たように思います。

また、実習中先生方からお話を伺う中で、「医師はジェネラリストであるべきである。」という意見を多く耳にしました。もちろん医師として高度な専門性を持つことも重要ですが、医師の絶対数が少ない地域の医療施設においては、自分の専門とする診療科以外は診ないという態度ではなく、まず診察し、その後手に負えないものに関しては高度な医療施設に紹介するという「来るもの拒まず」の精神が非常に重要であると学びました。

最後に、今回の実習は五日間と大変短いものでしたが、大学病院のような高度急性期病院では学ぶことのできない、より地域に密着した医療について多くのことを学ぶことができました。今回の実習で経験したことを学びの糧とし、将来一人でも多くの患者さんの力になれるよう、勉学に励みたいと思います。

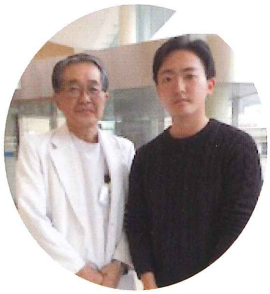
小笠原　菜月
岡山大学医学部医学科　3年生

私は10月1日から5日間井原市民病院で地域医療実習を行いました。井原市民病院は地域の中核病院であり大規模な手術はできないものの、CTやMRIをはじめとする医療設備が充実していたため、私が考えていた地域医療を行う病院のイメージとは違いました。しかしながら、医師数、看護師数は限られており、患者の年齢層は70代、80代が多く、まさに2025年以降、総合病院が取り巻かれると思われる環境でした。今回の実習を通して体験した事、感じた事を以下に記します。

井原市民病院では、病院内では外来見学や病院施設見学、看護師が行う様々なカンファレンス見学、病院外では、消防本部見学、訪問看護・訪問リハビリの見学、美星町にある三宅医院が行う訪問診療見学、認知症専門の病院であるきのこエスポワール病院見学などを体験させていただきました。

外来見学では、70代、80代の患者さんが多く1つの疾患の治療のみの来院が少ないように感じました。薬も10個以上飲んでいる人も多く、診療科も複数でした。そのため、患者さんが訴えている症状も他の診療科の薬の副作用である可能性も高いようです。地域医療を行うには、自分の診療科に限らず、広い知識と技術を持つ必要を感じました。また看護師が行う様々なカンファレンスを見学させてもらうことで、患者さんの家の環境、家族の介護能力を考えた退院カンファレンス、どのような食事が最も患者さんに適当かを一人一人考えるNSTラウンド、NST委員会などを行い、患者さん一人一人を考えた医療を行う工夫がされていました。マニュアル化されがちな治療、看護ではない、「一人一人の患者さんを支える」という理念を持った医療が行なわれている現場を見ることができました。このような医療には他職種の連携が必要であることを改めて感じるきっかけとなりました。きのこエスポワール病院では、病院とは思えない開放的な認知症治療の病院を見ることができました。認知症の患者さんは自身を病気だと思っていない人が多く、また重症度により全く生活状況が違うため、一つの病気として扱うことはできないと病院の方がおっしゃっていた通り、薬は最低限に抑え、環境面での治療を主にしていました。家のような空間作りや他の施設に比べ、介護士が多く、たくさんコミュニケーションがとれること、椅子が多く、転倒率が低いことなど他の施設とは違う空間となっており、他の認知症の患者の介護施設と比べ、患者さんの笑顔が多かったように感じました。病院の歴史はあるもののこれからの高齢社会に必要な施設であり次世代の治療をしていると感じました。自分らしい生活を保ちながら認知症と向き合えるため、このような施設が日本各地にあれば救われる患者さんも多いのではないかと感じました。

今回、様々な実習を行い、地域医療について考えるきっかけとなりました。井原市民病院の先生方、地域医療人材育成センターの先生の方々、消防署の方々、三宅医院の三宅先生、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



中田　征希
岡山大学 医学部医学科　3年生

この度、地域医療体験で私は井原市民病院で平成30年12月17日から12月21日まで実習させていただきました。この病院で実習したいと考えたのは、井原市民病院が井原市の中核を為していて、地域の方々との繋がりについて大いに学べるだろうという事と、僻地の比較的小さな病院と異なり様々な科があるので、多くの科を見学して幅広く地域の医療の状況を見てみたいという事からでした。実際1週間、間近で見せていただいて大きく分けて二つ実感した事があります。一つ目は先程も申し上げた通り、地域との結びつきの強さです。私は実習中に、ケアホームや訪問看護を見学させていただきました。そこでは様々な病状や事情を抱えた方がいらっしゃたのですが、同行したスタッフさんは患者さんのその日の声色や表情などに随時気を配りながら看護にあたっておられました。それは一介護者と被介護者の関係を超えたコミュニケーションのように見えました。医療従事者の患者さんへの真摯な姿勢や思い、そして患者さんからの大きな信頼があって初めて医療は成り立つのだと再認識した瞬間でした。そして特徴的だなと感じたのが、働く方の殆どが井原市に住んでおられることです。「病院の一スタッフでもあるが、その前に一市民である。市民は皆この病院の事をすごく大

切に思っているから、市民代表としてスタッフ１人１人が協力しあって責任を持ってよりよい医療を提供しようと努めている。」との教えを頂いたときには深く胸を打たれました。自分の仕事は自分の仕事、と線引きするのではなく、他のスタッフさんとの連携を深めて患者さんのために全力を尽くそうというマインドが、地域医療を支える上で強い基盤になっているように感じました。

二つ目は専門性や医療レベルの高さです。正直なところ実習に臨む前までは、患者さんもスタッフの方々も比較的年配の方が多いというイメージで、あまり先進的な医療行為は行われてないのだろうという先入観を持っていました。しかしながら最新のMRIやCTなどの器具を見せていただいたり、先生やコメディカルの方々の勉強会、日々行われるカンファレンスに参加させていただいたりする中で、以前の懸念は払拭されました。スタッフさんが一つ一つの症例を深く検討しあい、適宜患者さんの状況にあわせた最適な治療を心掛けておられるのを間近で見て、その病院にしかできない医療が存在することを実感しました。現状の医療に満足する事なく、常に新しく有効な技術や知識を体得しようとする姿勢は、将来どの様な環境で医療に従事するにしても大切にしたいと思いました。

今回の実習で様々な医療現場を見学させていただいた中で、幸運にも自分なりになりたい医師像が見えてきた様な気がします。その像を決して忘れる事なく、それに少しでも近づくべく日々の勉学にこれまで以上に精進していきたいです。最後になりますが、多くの経験と学びを下さった井原市民病院の皆様、地域の方々に深く御礼申し上げます。

三上　薫子

岡山大学 医学部医学科　３年生

5日間という短い間でしたが、地域医療体験実習のため井原市立井原市民病院にお世話になりました。私は大学で医療の基礎的な知識を少し学び、臨床にまでまだ及んでいない未熟者です。病院で行われている医療行為の意味をすべて理解することはできていません。それでも、井原市民病院で様々なことを学ばせていただきました。これは、井原市民病院の皆様が親切に教えて下さり、また色々なことを体験させて下さったおかげです。心より感謝いたします。

私は医療の現場についての理解が未だ足りないため、地域医療とそうでない医療の違いを本当にはよくわかっていないかもしれません。ですから地域医療という括りをあまり考えずに、医療者として患者にどのように向き合うのか、大切なことを教えて頂いたと思っています。また、診察中は何度か医師の背後に座らせて頂いて、実習生として扱われながら医師と患者の両方の立場について考えるようにしました。診療行為をしない今の時期だからこそ、両方の立場を考えやすいのではないかと思います。

印象に残ったことはいくつかあります。

その内の一つは、医師の病棟回診に同行させて頂いた時に学んだことです。患者がどのような事情で入院しているのか教えてもらいながら、医師が患者を診察する現場を見ました。病室にお邪魔して患者がどのように病室で生活しているのか見ることができました。患者は回診が来ることを知っていて、自分の病状について訴えを持っていることもありました。他の診察と同じように、患者の訴えを聞いてできる対処をしていました。基本的には、患者の痛みや苦しみについて表現できるのは患者自身しかおらず、しかしながら医療的な知識が足りずに自分で処置を行うことができません。そこで病気の専門家である医療従事者に状態を話して、適切な処置を行ってもらうことになります。患者は自分の身体に起こっていることで何が重要なのかわからなくても、医療従事者に聞いてもらえば安心だと考えているでしょう。だから、医療従事者が患者の訴えを聞くということは、診療を行う上でも患者の精神衛生のためにも重要なのだと考えられます。そして、診察されたという確かな実感を得て医師と信頼関係を築くために、聴診や触診で患者に触れることが大事なのだと聞き、納得しました。

また、井原市民病院の様々なところで、多くの医療従事者が同じ場で協力してよりよい医療を行っている場面を何度も見ました。見学させて頂いたNST委員会やICT委員会や退院カンファレンスなどがそのわかりやすい例です。それぞれ違う職で知識の偏りもあるかと思われますが、協力することで患者の包括的なケアを行っていました。将来は私もいい医師となって、他の医療従事者から教えて頂いたり意見を出したりできるような関係性になりたいと思いました。

友實　健人

岡山大学　医学部　5年生

２月４日から２月８日まで井原市民病院で実習させていただきました、岡山大学５年生の友實健人と申します。実習中は先生方、スタッフの方々に沢山のご指導をいただきましてありがとうございました。とても多くのことを学べ、将来の大きな糧となる実習となりました。また実習の段取りや、実習外の衣食住まで面倒を見ていただいた事務の方々のお陰でとても快適に実習をすることができました。ありがとうございました。そして何より見学やお話や診察をさせていただきました井原市の患者様方には、実習生の私を快く受け入れていただき、また何名かの方々には直接お体を診させていただき、本当にありがとうございました。

私はこの１年ばかり岡山大学病院にて実習をさせていただき、急性期の医療を中心に学んできました。診療科は多く実習の量は多かったのですが、他院より紹介されてくる患者様や転院となる患者様のその先を想像した時に、自分は医療の一部しか見ていないように感じ、井原市民病院での実習を希望させていただきました。

医療知識の少ない２年生時の地域医療実習と違い、今回の実習では急性期病院との違いを感じながら実習が出来たと思います。井原市民病院で最も感じたのは人と人との繋がりが強く幅広く相互的であるということです。カンファレンスでは患者様のバックグラウンドまで含め、最適な治療について話し合われている様子がとても印象に残っています。また退院へ向けてのカンファレンスでは多職種間で情報交換をし、協力して患者様を支えていこうという姿勢にチーム医療の大切さを実感しました。そのような体制が出来ているのは病院のスタッフの方々全員が責任感と使命感を強く持っていることの現れだと思います。井原市民病院は井原市の医療の中核として高い医療レベルが求められると同時に地域の基幹病院として慢性期、回復期にある患者様の健康管理をする必要があり、その両方を同時に行う事はとても大変な事だと思います。またスタッフの皆様が診療時間の後に勉強会や委員会を行い、自身のスキルアップや病院の環境改善を意欲的に行なっていた姿がとてもかっこよく、私自身の励みにもなりました。

最後に繰り返しとなりますが、井原市の方々、井原市民病院の先生方、スタッフの皆様には一生の思い出となるような時間を与えていただきありがとうございました。この度の実習で教えていただいた知識や医療人としての考え方を忘れずに、この先の人生で何かの形で井原に恩返しができるよう励んでいこうと思います。井原市と井原市民病院の今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

統合実習（地域連携）を通しての学び

（H30.10.22 ～ 10.26）（H30.10.29 ～ 11.2）（H30.11.12 ～ 11.16）

吉備国際大学　保健医療福祉学部　看護学科

坂田　貴愛

一週間という短い期間でしたが、病院の職員の皆様から丁寧なご指導をいただいたおかげで、私自身とても多くのことについて学び、経験し、本当に充実した日々を過ごすことができました。地域連携では院内、院外の多職種が協働・連携することで、患者様に安心して住み慣れた地域へ戻っていただけることを学ぶことができました。貴重な経験をありがとうございました。

森政　真帆

たくさんの会議や、オムツについての講義に参加させてもらい、とてもいい経験になりました。この経験を就職した際に生かしていきたいです！　ご指導ありがとうございました。

廣瀬　優希

今回の実習では、一般病棟から地域包括病棟へ転棟された患者様を受け持たせていただきました。

今までは退院を目指した看護ばかりに注目していましたが、退院後もその人らしく安心・安全に生活できるために専門的知識をもった多職種が多様な視点を持って退院後の将来をも見据えた退院支援を行うことが重要であると今回の実習で学ぶことが出来ました。退院支援では、患者様の性格や生活背景を捉えた上でその人らしく生活するために必要な社会資源を選択し、多職種による連携・協働が欠かせないものだと感じました。今回の実習では実際の現場でしか学べないものばかりでした。就職後もこの学びを活かしていきたいと思います。１週間ありがとうございました。

東　優人

今回の実習で地域包括病棟の患者さんを受け持ち多職種連携の実際を見る中で患者さんの生活を支える上で多くの職種が連携している事を改めて学ぶ機会となりました。そのなかで看護師は最も患者さんに近い存在であるため患者さんの代弁者となりチームを繋げる役割がある事が学べました。また多職種の方のお話を聞かさせて頂く中で看護師の視点だけでなく各職種の視点でどのように退院に向けてアプローチをしているのかを理解する事が出来ました。

退院支援に関わることで患者さんの疾患と治療だけでなく本人と家族の思いや今までの生活を捉え、現在の状況だけでなく退院後の生活を見据えた支援へと繋げていくことが大切であると学べました。

実習中に施設訪問やケア会議に参加させて頂き、より良い連携していくためにはお互いを知り強い関係を作る事がチーム医療を行なっていくために重要である事がわかりました。今後働く際にもこの経験を活かし成長していきたいと思います。一週間ありがとうございました。

仲村　伸一

今回の実習では、実際に退院支援に関わらせていただき、住み慣れた地域で生活をつづけるためにどのような連携を取っているのかを改めて学ぶことができました。本人や家族の意向に沿った生活が送れるようにするためにも全体像を広い視点で捉えることが大切だと感じました。職種ごとの専門的な関わりやケア会議への参加など、実習を通して貴重な体験ができました。今後この実習での学びを活かしたいと思います。一週間ありがとうございました。

上倉　希

私は、この実習で多くのことを学びました。初めは在宅に戻ることがあまりイメージ出来てなくて、どう支援していけばよいか分からず戸惑っていました。しかし、他職種やケアマネージャー、社会福祉士からの意見を聞くことや会議に参加することで、退院に向けて支援の仕方や流れ、他職種との連携などを学ぶことが出来ました。また、顔の見える連携の大切さも感じることが出来ました。

《ありがとうメッセージ》

院内売店前に『ありがとう』のメッセージボードがあるのに気づかれましたか？

売店「トマト」のオーナーである池田さんが市民病院を熱く応援したいとの希望で設置されたものです。池田さんがお客さん（患者さんやご家族）からの病院スタッフへ感謝と応援のメッセージを掲示しています。皆さんの応援、本当にありがとうございます。

第８回井原市民病院健康まつり

事務部長　田平　雅裕

平成３０年１１月１８日（日）、「第８回井原市民病院健康まつり」を開催しました。

合地院長の開会宣言に続き、岡山大学大学院消化器外科学の田邊俊介先生から「健康長寿をめざして～運動と食事で要介護を予防しよう～」と題した基調講演をいただきました。フレイルについてお話され、フレイルとは健常から要介護へ移行する中間の段階のことで、高齢者の多くがこの時期を経て要介護状態に陥るが、適切な支援をすることで健常な状態に戻ることもでき、それには毎日の運動やバランスのよい食事がとても重要であると話されていました。

また、毎年恒例となったトランペット奏者 﨑谷由佳利さん、安倍千晶さん（ピアノ）、高田正弘さん（サクソフォン）によるロビーコンサートや井原消防署によるＡＥＤ講習、はしご車による救出デモンストレーションのほか、災害に役立つエコノミー症候群予防の講話と体操など、健康コーナー６種類と体験コーナー６種類の催しを実施しました。

今回、新たな企画として『バックヤードツアー』と題し、日頃職員以外は目に触れることのできない病院の裏側を見学するツアーの参加者を募集したところ、定員を上回る多くの応募がありました。

今年は例年以上に多くの市民の皆様に来院いただき、盛会のうちに終了することができました。また、昨年に引続き、吉備国際大学及び市内高等学校３校の学生ボランティアの参加をはじめ、多くの方々のご協力のもとに健康まつりを開催することができました。紙面をお借りして心からお礼を申し上げます。

全員集合

基調講演

ロビーコンサート

AED 講習

エコノミー症候群予防体操

職員旅行記（USJ）

リハビリテーション科　理学療法士　石井　仁美

平成30年11月25日（日）、むつみ会会員（当院の互助会）、その家族、総勢53名で【USJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）】へ行ってきました。

当日は家族での参加者が多く、また天候も気温も絶好の旅行日和で、各々思う存分に楽しめたのではないかと思います。

クリスマスイベントの期間中ということもあり、クリスマスツリーが飾ってありました。今年で終了となる「天使がくれた奇跡」は、時間の都合上残念ながら見ることはできませんでした･･･(涙)。しかし、ミニオン･ハチャメチャ・クリスマス・パーティーというパレードを見ることができました！パレードは観客も巻き込んで、みんなで大はしゃぎ。パレードを見ていた当院職員も、スノーマンと楽しく踊っていましたよ♪

私自身は、念願かなってフライングダイナソーに乗れて、大満足です！アトラクションもたくさん回れたし、イベントも楽しめて、充実した１日になりました。

当院の状況はというと、カルテシステムの入れ替え中でもあり、慌ただしい気持ちの中での旅行でしたが、心身ともにリフレッシュすることが出来ました！！今回の旅行参加者はもちろんですが、スタッフ一丸となって、今後とも地域の医療や発展等のために精進してまいります！！

糖尿病教室・健康教室・子育てサロンのご案内

■健康教室（偶数月　第３水曜日 11時30分～　外来待合ホール）

日　時	テーマ	担　当
6月19日（水）	「日常生活に運動を取り入れましょう」	理学療法士
8月21日（水）	「お薬とサプリメントのあぶない関係」	薬剤師
10月16日（水）	「医療被ばくと発がんリスク」	放射線技師

■糖尿病教室（毎月第１火曜日 11時30分～　外来待合ホール）

開催日を火曜日に変更しています。日時を確認のうえ参加ください

日　時	テーマ	担　当
6月4日（火）	「歯周病にならない歯磨きをご存知ですか」	歯科衛生士
7月2日（火）	「災害と糖尿病」	医師
9月3日（火）	未定	管理栄養士

■子育てサロン（毎月第１又は第３金曜日１４時３０分～　外来待合ホール）

開催日を金曜日の１４時３０分に変更しています。日時を確認のうえ参加ください。

講　師：岡山大学名誉教授、新見公立大学副学長　小田　慈 先生

日　時	テーマ
5月17日（金）	「急な発熱や嘔吐　～何を気をつけてあげればいい～」
6月　7日（金）	「肌トラブル　～どうケアしてあげればいいの～」
8月　2日（金）	「子どもの食事　～離乳食から食育まで～」
9月20日（金）	「発達障がい　～普通と違うってどういうこと～」

◎サロンのあと、子育てについての相談会も開いています。